

2020年4月2日  
NHK広報局

#### 4月会長定例記者会見

Q. 新型コロナウイルス、東京オリンピック・パラリンピック延期に伴う対応について

A. (前田会長) 新型コロナウイルスの感染が広がっておりまして、朝の連続テレビ小説『エール』にご出演をいただき志村けんさんが亡くなりました。志村さんをはじめ、亡くなられた方々に心より哀悼の意を表します。また、治療中の方々の一刻も早い回復を願っております。

NHKは3月24日に、正確な情報を迅速に届け、安全安心を守ることなど、6つの柱を掲げた行動指針を策定し、公表いたしました。全国と各地域でテレビ・ラジオ・インターネット等、あらゆる伝送路を使ってお伝えしているほか、4月は毎週土曜日のNHKスペシャルで、新型コロナウイルスを取り上げます。3月に放送いたしました、NHKスペシャル『“パンデミック”との闘い～感染拡大は封じ込められるか』と『激震コロナショック～経済危機は回避できるか』を、NHKプラス、NHKオンデマンドに加え、民放公式テレビポータル「TVer」で配信をいたしております。これらの番組につきましては、より多くの方々に視聴していただける機会を提供することで、感染拡大の防止につながると考えておりまして、NHKオンラインでもご覧いただくことができます。今後も新型コロナウイルスに関する番組で、権利を確保できるものにつきましては、できるだけ多くの方に見ていただけるよう、NHKオンラインや「TVer」での配信を視野に入れていきたいと考えております。

外国人向けの国際放送、「NHKワールド JAPAN」では、テレビ・ラジオ・インターネットを通じて、合わせて18の言語で情報発信を連日行っておりますほか、SNSでも、英語など複数の言語で、感染予防策の動画や記事などを掲載しております。また、先ほど述べました、NHKスペシャル『“パンデミック”との闘い～感染拡大は封じ込められるか』を英語化して、国際放送で放送するとともに、「NHKワールド JAPAN」のウェブサイトのオンデマンドで提供し、世界の各地で非常に多くの方にご覧いただいております。

さらに、感染拡大防止の取り組みとして、ニュース番組や情報番組などで、キャスター同士の距離を置いてお伝えをしているほか、感染リスクが高い、密閉された空間などでの取材を控える対応を取っております。

また、大河ドラマ『麒麟がくる』と連続テレビ小説『エール』の収録を、当面、4月12日まで見合わせることにいたしました。イベントや公開番組につきましては、すでに観客を入れずに開催するか、中止・延期の措置を取っておりますが、これらも継続することといたしております。

また、新型コロナウイルスの影響で、東京オリンピック・パラリンピックが大会史上初めて、およそ1年延期されることとなりました。すでに聖火リレーのハイライト番組など、いくつかの番組の中止を決め、その他の放送や事業運営への対応を検討いたしております。放送・サービス計画の見直しに着手することになりますが、「最高水準の放送・サービスの提供を目指す」ことは変わりません。今後は延期された大会の詳細を決めていく、大会組織委員会やIOC＝国際オリンピック委員会などの議論の動向を注視し、JC＝ジャパンコンソーシアムを構成する民放各社とも、必要な連携を取りながら対応を検討してまいります。

なお、放送センターの建て替え工事は、東京オリンピック・パラリンピックの後に着工の予定でしたが、老朽化が進んでおりますので、情報棟建設を含む第一期工事は、予定どおり今年9月に着工することといたしました。工事の進捗は今後の状況次第でございますが、今のところ、情報棟は計画どおり2025年度中の運用開始を目指しております。

Q. 『麒麟がくる』『エール』の収録は、どの程度余裕があるのか。あるいは（放送の）休止もあり得るのか。

A.（会長）大河ドラマと連続テレビ小説は、出演者とスタッフの数が多く、また、演出上、安全対策にも一定の限界がございます。NHKとしては自主的な判断で、感染予防を最優先に、収録の一時休止を決めております。主な出演者の方からもご理解をいただいていると聞いております。引き続き、感染防止対策を徹底した上で、視聴者・国民の皆さまにとって、真に役立つ放送サービスをお届けしてまいりたいと思います。

Q. 放送センターの着工スケジュールは、五輪が延期されても、影響がないのか。

A. (会長) もともとの予定では、オリンピックが終わった後に着工すると決めていたんですが、オリンピックそのものが1年延期になりました。ただ、建物の建て替え計画については、同じく1年ずらすとなりますと、全体計画にすごく影響しますので、着工は今年予定どおりやらせていただきたいと思います。それによりまして、来年のオリンピックの放送等に影響が出ることはございません。

Q. 新型コロナウイルスに関連して、プロ野球解説者の梨田昌孝さんがかなり重症だという報道があるが。

A. (会長) 梨田さんは、野球解説者として大変お世話になっております。現在、病院に入院されて、治療を受けていると聞いておりますけど、元気な姿で野球解説に復帰していただけるよう、一刻も早い回復をお祈りしております。

Q. 新型コロナウイルスに関して、中小企業やホテルなどに対して、何らかの緩和措置のような予定はあるか。

A. (会長) NHKでは、すでに相談を受ける専用窓口の設置や事業所につきましても、割引適用の緩和措置を講じておりますが、感染の拡大が急速に進んでおりまして、未曾有の状態となっております。3月30日に高市総務大臣から、旅館やホテルなどの中小事業者向けの受信料負担の軽減について、減免を含めて、検討の要請がありましたことを踏まえまして、NHKといたしましても、前向きに検討したいと考えております。

Q. 新年度スタートにあたって

A. (会長) 2020年度のNHK予算、事業計画は、おととい、3月31日の国会で承認され、新たな事業年度のスタートを切ることができます。2020年度は現在の3か年計画の最終年度にあたります。予算・事業計画に基づき、新型コロナウイルス感染症への対応を含め、命と暮らしを守る防災・減災報道に全力で取り組むなど、公平・公正で正確な情報を伝えるとともに、多彩で質の高いコンテンツを提供してまいります。

また、昨年10月の実質値下げに続きまして、今年の10月から受信料の値下げを着実に実施するとともに、公平負担の徹底に向けた取り組みを進め、年度末に受信料支払い率84%、衛星契約割合54%という目標の達成に努めてまいります。2020年度の事業収支差

金は、赤字となる見通しでございますが、公平負担の徹底などにより、増収の確保に努める一方、既存業務の見直しや経費削減を行い、できるだけ早期の収支相償を目指してまいります。

そして、2021年度から始まる次期中期経営計画の策定に向けた作業も本格化いたしまして、今年の夏をめどに、意見募集にかけるための案を固める必要がございます。この次期中期経営計画のキーコンセプトは、「NHKらしさの追求」にしたいと考えております。NHKが公共メディアとして、多様で質の高いコンテンツをつくり続けていくために、私が先頭に立ちまして、計画に盛り込む具体的な施策の検討をスピーディに進めてまいります。新年度とともに、常時同時配信と見逃し番組配信のサービス、NHKプラスが本格的にスタートいたしました。2020年度は公共メディアとしての、NHKの真価が問われる年度となります。放送を太い幹としつつ、インターネットも効果的に活用し、視聴者国民の皆さまに、受信料の価値をより実感していただけるように努めてまいります。

なお、皆さん方から質問があると思いますので、あらかじめ申し上げますが、4月25日付の執行部役員人事につきましては、次期中期経営計画の施策を実現するために、改革意欲のある人材を適材適所で任命したいと考えております。任命にあたりましては、経営委員会の同意が必要でございますので、新しい執行部体制が決まり次第、皆さんにもお知らせしたいと思っております。

Q. 予算事業計画が4年ぶりに全会一致にならなかったが、会長の受け止めは。

A. (会長) ご理解いただけますように、誠心誠意、丁寧なご説明に努めてまいりましたが、結果として、全会一致でのご承認をいただかなかったことは、誠に残念でございます。公共放送・公共メディアとして、NHKらしい、多様で、質の高いコンテンツをお届けすることで、信頼される情報の社会的基盤としての役割をしっかりと果たし、視聴者・国民の皆さまの期待に応えてまいりたいと思っております。

Q. 中期経営計画について、イメージしていることはあるのか。

A. (会長) ざっくりしたのは、今、フレームとして、頭の中にあるんですけども、毎週のように、いろいろと検討をしております。この中期経営計画、なかなか私は難しい状況だなと思っておりまして、いろいろなご批判もありますし、肥大化の批判もありますし、また、一方で、NHKの施設、ご覧のとおり、一番のこの中心の建物がものすごく老朽化しているという現実もあります。ですから、これをどう

やって解決しながらやるのかというのは、簡単に、何かやるとすぐできるという感じでもございませんので、それから、合わせて人事制度を含めて、制度的な手当てもしないと、さすがにちょっと先のことがなかなか展望できないという、私の直感もございまして、そういう意味では、かなり広範囲にいろんなことを改善していくというのを織り込まないと、この環境変化に、NHKがついて行けないのではないかとというのが、私の感じでございます。もうちょっとお時間をいただきたいと思います。

Q. 中期経営計画について、何月までとか見通しはあるのか。

A. (会長) いつまでというのは、私は夏までと一応頭の中で思っているんですけど、今年はずっとオリンピックがそこにある予定でしたので、どうやってやろうかと悩んでいたんですけど、オリンピックが延期されましたので、そういう意味で作業そのものが夏までには出来上がるかなと思っています。ただ、その後、それが出来上がった後、いろいろとご注文を、経営委員会等を含めてご注文を聞かなきゃいけないものですから、それを含めてやるにはやっぱり夏から秋ぐらいかなと思っています。パブコメも当然かけますので、今のところちょっと、ややファジーで申し訳ないんですけど、頭の中では、まあ8月から9月ぐらいには何とかやりたいかなと思っています。

Q. 4月に総務省が放送をめぐる諸課題検討会の下に、受信料制度等について議論する専門家会議が設置されたが、受け止めは。

A. (会長) 大臣の問題意識は私もよくわかりますし、我々も中でいろいろ検討をもととしておりますので、そこは明らかに世の中の環境が変わっていますので、そこに対応して、我々も我々独自でいろんなことを考えていきたいと思っております。

Q. NHKプラス本格開始について

A. (会長) 常時同時・見逃し番組配信サービス、「NHKプラス」が4月1日から本格的なサービスを始めました。同時配信はこれまでより1時間早い午前6時からの開始となりました。また、見逃し番組配信は、これまでどおり24時間のサービスであります。多くの皆さまに、ご利用いただきたいと思います。3月1か月は試行的に実施し、この間、30万件を超える(後のやりとりで担当者が33万件と説明)利用登録のお申し込みがございました。利用者の方からは、登録や利用の方法に関するお問い合わせがたくさん来ました。一方で、出勤や帰宅の途中に最新のニュースを見ることができて便利である

と。また、見逃した番組、録画し忘れた番組を1週間配信してくれるのはありがたいなどと評価していただく声も寄せられています。また、この間に権利者団体や権利者の皆さまのご協力をいただきまして、かなり多くの番組を配信することができました。

見逃し番組配信では、視聴者、国民の皆さまが、今、最も心配されております新型コロナウイルスへの対応として、最新の情報や予防につながる情報、また休校中の子どもたちが自宅で学べる番組などを集めたプレイリストを用意いたしました。また、困難な時期だからこそ、心を豊かに人と人とのつながりを感じさせるような良質なドラマ、エンターテインメント、文化、芸術などの番組も配信しております。見逃し番組配信の詳細につきまして、担当者からご説明いたします。

(担当者) NHKプラスでは、見逃し番組をジャンルごとにまとめて提供しています。新型コロナウイルスをめぐる最新情報を扱った番組、たとえば『ニュース7』などや『NHKスペシャル』などのドキュメンタリー番組などを並べております。

また、予防や対策、また、学校の新学期の状況や経済対策など、日々の生活で皆様が疑問に感じていらっしゃることに答える番組、たとえば『ガッテン!』などの番組を並べております。先日お亡くなりになりました志村けんさんをご出演された番組などを並べております。このほか、外に出にくい子どもたちが自宅で学べる番組だとか、あるいは、自宅で体を動かしてほしいと思っているような、そんな番組を集めたリストも設けております。このように、見逃し番組をジャンルごと、テーマごとに並べまして、とにかくお使いの方がご覧になりたいテーマやジャンルの番組にすぐにたどり着ける、簡単に探せるということに取り組んでおります。一方で、ご存知なかった番組と出会えて、新しい世界や多様な考え方に触れていただくきっかけになればと思っております。とくに新型コロナウイルスをめぐるまじは、憶測やデマを含めまして、さまざまな情報が飛び交っている中で、正確な情報や不安や疑問に答える番組、さらに癒やしを感じていただけるような番組など、NHKの多彩な番組、多くの方に触れていただければと思っております。

(会長) 試行的な期間に多くの方に登録の申請をいただきましたが、登録の方法がわかりにくいという声が寄せられましたので、サービスを説明するページの表現を見直すなど、手直しをいたしました。今後も利用される方々のご意見をサービスの向上に活かしながら、NHKの公共性の高い放送番組や情報などのコンテンツをいつでも、

どこでも、何度でも受け取っていただけるサービスとして育てていきたいと思えます。

Q. 3月の試行期間 1 か月で多くの申し込みがあったというが、順調という受け止めか。

A. (会長) 立ち上がりそのものは非常に順調な滑り出しと受け止めております。当初、想定以上に申し込みが殺到したということもございました。この先の見通しですけれども、これちょっと、何とも申し上げることが難しいんですけど、350万IDというのは、これは別にID獲得の目標という形で設定したものではありませんので、それくらい来ても大丈夫だというような設計になっております。そういう意味で、今のところ順調ですけれども、オリンピックの延期の影響がどれくらい出るかというのはちょっと申し訳ないですが、読めません。そういう状況でございます。

Q. 5月のBS8K番組について

A. (会長) BS8Kでは、5月の編成テーマを「宇宙」といたしまして、『8Kアースウォッチャー』の新作や、『ハッブル宇宙望遠鏡が見た宇宙絶景』などを放送いたします。そして今回ご紹介するのは、江戸時代の星空を8Kの超高精細映像で、現代に再現した番組『8K東京プラネタリウム』でございます。詳しくは、担当者からご説明を申し上げます。

(担当者) 大都会東京は、ビルやタワーなどの美しい夜景の影響で、本来夜空に輝く星々が消えてしまい、見えづらくなっています。しかし、江戸時代は夜空に無数の星が瞬き、夏には見事な天の川が姿を現していました。その証拠は数々の浮世絵に残されています。その浮世絵から、江戸の星空を検証し、実際の星空を全天周の超高精細カメラで撮影しました。一部ドラマを交えて、江戸時代の星空を東京の現代の夜景によみがえらせます。

今後も、国内や世界の各地、そして宇宙など、皆さまが見たこともないような映像を4K・8Kの高精細映像でご覧いただけるよう努めてまいります。

Q. かんぽ生命の不正販売をめぐって、3月31日の参議院総務委員会で、2018年10月23日の経営委員会で、厳重注意を受けた上田前会長が、この経緯が表に出れば、「NHKは存亡の危機に立たされることになりかねない」ということを発言されたことを、森下経営

委員長が認めたが、前田会長の受け止めは。

A. (会長) 私は、上田前会長から直接そういうお話を聞いたことはございませんので、ちょっとコメントのしようがないんですが、経営委員会の議事録をめぐる問題、衆議院、参議院で、かなりの質問を受けたのは事実でございます。私は、その過程でも申し上げましたが、執行部を代表して申し上げますと、これまで申し上げましたとおりでございます。このことによりまして、放送の自主・自律や番組編集の自由が損なわれた事実はないと認識しておりますし、現場もそのように認識をいたしております。

(以上)